

平成27年度 科学技術関係予算の編成に向けて【概要】

- 経済好循環に兆しが見えつつある今、我が国経済を確実に成長軌道へと乗せ、中長期にわたり持続的に成長可能なものとしていく好機。
- 我が国経済の再生に向けた強い決意のもと、昨年6月にとりまとめた総合戦略2014を確実に実行すべく、総合科学技術・イノベーション会議が司令塔機能を最大限発揮し、概算要求を主導。

科学技術関係予算の編成に向けた考え方

1. 直面する重要課題への対応

(1) 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)による重点化

- ー 関係府省の所掌事務や研究分野の縦割りを超えて、基礎研究から出口までを見据えた研究開発や、規制制度改革を含めた取組を推進するプログラム。
- ー 課題ごとに決定されたプログラムディレクターが関係府省を主導して、計画を強力に推進。

● 科学技術イノベーション創造推進費:500億円(要求・要望額) ⇒ **重点化対象**

(2) 科学技術重要施策アクションプランによる重点化

- ー 各府省の課題解決型の施策について、府省横断でかつ政策課題解決を先導する体制を構築するものに、重点化の対象を決定。

● アクションプラン対象施策:2,967億円(要求・要望額) ⇒ **重点化対象**

2. 科学技術イノベーションに適した環境創出に向けた対応

- ー 各府省のイノベーション環境創出に向けた施策について、関連する施策をパッケージ化し、相乗効果を高め、「世界で最もイノベーションに適した国」の実現を図る取組に、重点化の対象を決定。

● イノベーション環境創出対象施策:674億円(要求・要望額) ⇒ **重点化対象**

3. 国家的に重要な研究開発の評価

- ー 昨年度に行った大規模新規研究開発評価「エクサスケール・スーパーコンピュータ開発プロジェクト(仮)」の評価結果を受けて、「フラッグシップ2020プロジェクト(ポスト「京」の開発)」の評価を実施。
- ー プロジェクトの意義・必要性を改めて確認するとともに、2019年度までの開発目標や工程表についても妥当である等の評価結果を受けて、所要の予算を確保。

4. 科学技術関係予算全体について

- 平成27年度は、第4期基本計画の最終年度。
- 第4期基本計画においては、政府研究開発投資を対GDP比の1%(約25兆円)とすることを目標。
- 日本経済再生のための科学技術イノベーション政策の重要性から、科学技術関係予算の充実・確保に向けて取り組む。

所要の予算の確保、
政策のさらなる推進

科学技術イノベーション
政策を通じた我が国経済
の再生